年度 2008 学期 後期	曜日・校時 水 4	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語Ⅱ Comprehensive English Ⅱ		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) Ti	科目分類 外国語科目(英語)		

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー

担当教員:中村 吏花 /Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ:arthur410@hotmail.co.jp /研究室:非常勤講師控室 /オフィスアワー:水曜昼休み

担当教員(オムニバス科目等)	

授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500 文字)

授業のねらい: TOEIC に対応したテキストを使い、数多くの問題を解いて TOEIC に慣れる。パターン別にその特徴を認識し、解答のコツを掴む。新出語句や表現を習得する。リスニング・リーディング練習をバランスよく行い、リスニング力・リーディング力の向上を目指す。

授業方法:必ず予習をして授業に出席すること。問題の解答だけでなく、英文解釈や英文音読なども毎回無作為に指名して発表してもらう。予習の際には制限時間内に解答することを心がけ、その後で丁寧に確認してくる。授業中にそれぞれの問題のポイントと、内容を理解する。重要文法事項を解説する。6回程度小テストを行う。適宜リスニング練習のためのプリントを配布する。CD を活用して、ディクテーションや音読など英語を聞き・読む訓練をする。

授業到達目標:英語の基本 4 技能のうち特にリスニング・リーディングの力を向上させる。基本的な文法・構文・表現方法を習得し、英語を正しく理解することが出来る。

授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300 文字)

授業内容(概要): 予習してきた問題の答えを確認する。語句・表現・文法の解説をする。英語の音の特徴・リズムを知り、英文の構造に慣れるために、CD を活用して、ディクテーション、シャドウイングなど英語を声に出して読む訓練をする。英語の語順を意識して、長文を読む。

*内容がよくつかめないときは、「何がわからないのか」を明らかにさせてきてください。文の構造がどうなっているのか、その文脈ではどういう意味でその単語が使われているのか、代名詞が何を指しているか、など、細かく確認していくと、「わからないところ」がはっきりすると思います。

第1回 TOEIC についての説明(実力テストを含む)
第2回 品詞, Letters/E-mails, Faxes, and Memos
第3回 前置詞, Letters/E-mails, Faxes, and Memos
第4回 接続詞, Articles and Web Pages
第5回 代名詞, Articles and Web Pages
第6回 受動態・分詞, Notices, Instructions, and Announcements
第7回 時制, Notices, Instructions, and Announcements
第8回 If、動名詞と不定詞, Advertisements
第9回 その他動詞の形いろいろ, Advertisement
第10回 比較, Forms
第11回 可算・不可算名詞, Forms
第12回 関係代名詞, Schedules and Maps
第13回 副詞の使い分け, Schedules and Maps
第14回 主語と動詞の一致, Double Passages
第15回 前授業の総括(試験含む)

キーワード	TOEIC
教科書・教材・参考書	*Effective Approaches to Grammar and Reading on the TOEIC Test* (朝日出版社)1600 円(税別) *第一回目の授業の最初に教室で教科書販売を行います。必ず出席してください。
成績評価の方法・基準等	定期試験45%、小テスト45%、積極的な授業への参加状況10%(「出席点」はありません。)
受講要件(履修条件)	3 分の 1 以上の欠席で受験資格を失います。(入院・出席停止の伝染病等を除き、病欠も欠席扱いとします。)正当な理由で欠席する場合は、その証明となる書類を提出してください(コピー可)。 *教室に座っていれば「出席」というものではありません。予習をして授業に臨み、他の人の発表に耳を傾け、疑問があれば質問し、積極的に授業に取り組んで初めて「出席」とみなします。
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	授業には必ず予習をして臨み、辞書を持参して下さい(電子辞書可。携帯電話は使用不可)。 予習をする際は、最初、時間を決めてテスト本番のつもりで練習問題を解いてみて下さい。その後から丁寧に確認するようにしましょう。わからない所は、想像力を働かせ内容を自分なりにイメージしてから、辞書を引き文法書を参照する、というような作業を通して、英文を理解するコツを身に付けましょう。